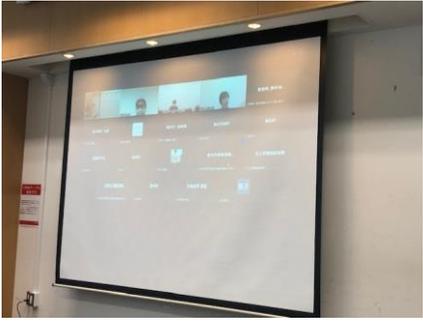


岩手県地球温暖化対策地域協議会情報・意見交換会

開催報告

報告令和7年2月1日

1. イベント名	令和6年度 地球温暖化対策地域協議会 情報・意見交換会	
2. 開催概要	日時：令和7年1月31日(金) 13:00~16:00 場所：アイーナ7F 701会議室	
3. 内容	参加者	会場16名 オンライン26名 合計42名
	開催場所：いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階 701会議室 次第 1. 日時 令和7年1月31日(金)13:00~16:00 2. 場所 いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階 701会議室 (盛岡市盛岡駅西通1-7-1) 3. テーマ ~脱炭素につながる豊かな暮らしを目指して~ 4. 内容 1) 開会・挨拶 13:00~13:10 2) 活動報告 13:10~13:30 温暖化防止いわて県民会議若者ワーキンググループ いわてカーボンフリー・アクション (ICFA) 3) 脱炭素先行地域の取組紹介 13:30~14:00 釜石市・陸前高田市 4) 大槌町地球温暖化対策地域協議会の活動報告 14:00~14:15 5) 質疑応答 14:15~14:25 休憩 14:25~14:35 6) 情報・意見交換会 14:35~16:00 5. 閉会 16:00~	
-----【実施風景】----- 会場参加者とオンライン参加者の様子		
		
		
実施概要 1) 代表挨拶 2) 活動報告		

①温暖化防止いわて県民会議若者ワーキンググループ



●活動目的

脱炭素社会の実現に向けた課題に対し、若者の視線で検討し、温暖化防止いわて県民会議（101 団体加盟）への提案などを通じて、今後進むべき道やアクションの参考としていただくこと。

●メンバー5 企業・5 名

- ・信幸プロテック株式会社・岩手大学環境マネジメント学生委員会・IGR いわて 銀河鉄道株式会社・NPO 法人環境パートナーシップいわて・株式会社岩手銀行

●令和 5 年度の活動

- ・7 月～10 月：勉強会、提言取りまとめのための意見交換・ワークショップ
- ・11 月：提言報告（県民会議会長：岩手大学小川学長、岩手県副知事）

【提言内容】

- ・暮らし（家庭・住宅）・仕事（事業者・産業・行政）への提言を行った。

●令和 6 年度の活動

- ・8～10 月：提言実現のための意見交換
⇒「ゼロカーボン就活」の企画
- ・令和 7 年 2 月 22 日（土）：ゼロカーボン就活～2025 冬～の開催

②いわてカーボンフリー・アクション（ICFA）岩手県環境生活企画室



ICFA とは県内の大学生が大学の枠を超えて連携し、脱炭素化につながるライフスタイルへの転換を Z 世代を中心とした県民に訴える広報活動を行うプロジェクトチーム。

現在は岩手大学環境マネジメント学生委員会、岩手県立大学 SDGs サークルさす

ぐらし、富士大学の地域連携センター学生委員会の三大学で連携して活動している。

●広報活動

「脱炭素化につながるライフスタイル」を題材にショート動画を制作し SNS を通じて発信している。

●令和 6 年度の活動

9/20 出前授業（久慈東高校）10/6 どでびっくり市（花巻市）10/12 脱炭素フェスタ（宮古市）10/26 地域循環共生圏 SDGs フォーラム（滝沢市）11/9 海と希望の学園祭（釜石市）10/2 出前授業（山田高校）12/7 いわてサステナブル Café（盛岡市）

●成果と変化

ICFA 参加学生の脱炭素につながる行動変容について→

- ・いつの間にか ICFA の活動に限らず、周りのことも積極的に行動しようという意識を持つことができていた。
- ・イベントや活動する上で、人との関わりや、与えられた役割をこなすことにマイナスな気持ちを持っていたが、ICFA のメンバーで活動していくうちに楽しくなってきた、色々挑戦していきたいという気持ちになった。
- ・これまで人とあまり交流するということがなかったため、他大学の学生さんや企業さんと一緒に活動することに不安があったが、ICFA の活動を続けていくうちに、コミュニケーションが徐々にとれるようになり、活動をしていく中で、自分が成長することができたと感じている。
企業との交流により一緒にイベントを立ち上げたいという気持ちが強くなった。

3) 脱炭素先行地域の取組紹介

釜石市 産業振興部国際港湾産業化 ゼロカーボンシティ推進室



●2050 ゼロカーボンシティへの挑戦

- ・釜石市の温室効果ガス削減目標
- ・ゼロカーボンシティ実現に向けた取り組み
- ・「釜石市再生可能エネルギービジョン」重点プログラム・ロードマップ
- ・【脱炭素先行地域】釜石市の計画提案

電力の供給スキーム

先進性・モデル性について

●釜石市が目指すもの

エネルギー代金の流出抑制・地域内経済循環

自然共生への配慮

デコ活の推進

交流人口・つながり（関係人口）、活動人口の拡大

陸前高田市 政策推進室 脱炭素推進室



●脱炭素・資源循環を通じた真の復興に向けて

- ・ 陸前高田市の概況
- ・ ハード面での復興は完了。真の復興を目指すフェーズに
- ・ 脱炭素先行地域の取組 課題
 - ① 基幹産業である第一次産業の振興
 - ② 津波被災地の利活用
 - ③ 電気保安人材の不足
- ・ 脱炭素先行地域計画 概要
 - ① 中心市街地エリア
 - ② 森林・水資源活用モデルエリア
 - ③ 漁業脱炭素化モデル施設群

●先進性・モデル性① 営農強化型太陽光発電×ポット式根域制限栽培（地域課題解決）

・ 営農強化型太陽光発電（ワタミオーガニックランド）マスカットベリーA（赤）栽培3年目の令和5年から収穫開始、ワイン加工実施。

●【先進性・モデル性② 電気保安人材の育成・確保（地域脱炭素の基盤創出）】

- ・ なぜいま電気保安人材なのか？
再エネ事業推進には電気主任技術者が不可欠。

●脱炭素先行地域の取組

- ① 自家消費型太陽光発電や木質バイオマスエネルギー利用設備の導入促進。
- ② 太陽光が難しい世帯には「再エネ電気」を供給
- ③ 食品残渣・下水汚泥のメタン発酵によるエネルギー（電気）・液肥製造
- ④ 横田地区中心部における地域マイクログリッド構築

⑤「山の森」「海の森（藻場）」の保全・再生とクレジットの創出

●脱炭素先行地域の推進体制

- ・陸前高田しみんエネルギー株式会社との連携

4) 大槌町地球温暖化対策地域協議会の活動報告

大槌町地球温暖化対策地域協議会 三陸自然学校大槌



●大槌町地球温暖化対策協議会 2010年11月8日設立

目的：町内で排出されるCO₂やごみの量の削減

地域でできる事業の計画・実施

地球温暖化対策に関する啓発運動

●2011年東日本大震災→復興の時代 2024年3月環境基本計画策定

- ・町民主体の役割：町民・事業者・町が共同で行う

町民：環境とのかかわりを認識できることから

事業者：環境負荷の低減、環境保全活動への協力

町：環境への情報提供環境施策の推進、環境保全活動の支援

●大気汚染防止推進月間フォーラムの開催

- ・2024年12月19日（水）に実施 大槌町文化交流センターおしゃっち

主催：三陸自然学校大槌

共催：大槌町、大槌町地球温暖化対策協議会、環境パートナーシップいわて、
大槌環境保全の会、

協力：かまいし環境ネットワーク

内容

- ・講演会：東京大学大気海洋研修所国際沿岸海洋研究センター藤井貴彦教授

- ・出張環境学習会で環境学習交流センターが協力（森の工作体験・環境パネル・手回し発電体験等）

●地球温暖化が環境に与える影響

- ・海面上昇・生態系の変化・気候の変化、災害の増加・農作物や家畜産業への打撃・人体への影響・地域への影響

身近な生き物と接している地方活者ほど地球環境の変化に敏感

1人の1,000歩よりも1,000人の1歩

●大槌町より補足説明

今年度行ったようなさまざまな環境に関する体験型の勉強会などを開いて、参加いただいている町内の事業者、団体さんをコアメンバーとして新たな協議会組織を立ち上げていこうかなと思います。

やはり協議会の中のメンバーさんがすごくポイントというか、温暖化対策や環境に関して前向きに考えていらっしゃる方で構成されないと続かない。町としては活動を継続することで、メンバーを揃えて地域あるいは住民と一体となった活動に発展させていきたいというふうに考えています。今日はありがとうございました。

質疑応答

岩手県環境生活企画室：

県という立場上、いろいろな人のお話を伺うと、地域協議会を継続するための悩みがあるというところが結構あります。大槌町さんの取り組みは、一度なくなり停滞してしまったものを復活させたことは、非常に素晴らしい取り組みだなと思っています。お話を伺って、中心になれる人物がいらっしゃって、盛り上げていくところがいいのかなと思っています。

ほかの市町村の皆さんもどうやって立ち上げていこうかなというふうになると思うので、それを参考にさせていただいて、我々からお伝えしていけたらいいなと思っておりましたので、またちょっといろいろ伺いたいと思います。

釜石地域協議会：

これまで (1) (2) (3) と脱炭素先行地域の方と、それから温暖化対策地域協議会大槌で再び立ち上げたお話をお聞きしてきて、どうしても気になることがあります。

太陽光発電があちこちで乱立しています。まあ、そうでなければいけないでしょうけれども。それにつきましても、その太陽光発電のパネルですが、中国産がほとんどだというのがまず気になるというところと、それから 20 年後には取り換えなければならない、パネルがだめになるということ聞いてますので、そういう観点のお話はなかったのがちょっと気になるところです。

司会者：

太陽光発電、需要を伸ばさなきゃならないが、20 年後これどうするんだ？大変難しい問題ですけど、どなたか回答していただける方いますか？

一関市地域協議会：

中国産の何が問題なのでしょうか？

司会者：

中国産は何が問題か。質問ですけども。

釜石地域協議会：

日本で国産ができればいいなと思って言いました。修理するとなったとき、日本の製品があればスムーズに処理できるのではないかな？ということでお話しました。あと、やっぱり 20 年経ってどうしても取り換えなきゃならないようなことになったときに、取り換えるものが、日本産であれば安心できるのかなという観点でご質問いたしました。

一関市地域協議会：

それは日本のメーカーが頑張るかどうかによると思いますね。perovskite とかも開発されています。日本の技術で、新しいタイプのパネルで日本製が出てくるとか、そういったのを見守るしかないんじゃないかなと思います。

司会者：

はい、ありがとうございます。また、20年後の取り替えという問題もありますし、また20年後には大量のゴミとなって出てくるという課題もありますけれども、これは何かありますか？

一関市地域協議会：

水沢環境保全サービスが100%リサイクルというか、そういう装置を作って、全国どこか海外から視察に来て、導入されている国もあると聞いてます。リサイクルは大丈夫だと思います。あとは20年経ったら全く発電しなくなるわけではなくて、保証が80%までに下がるということだけなので、あとは発電率が下がったパネルをもちろん再利用可能なわけです。20年後、廃棄するっていう方法もあるし、再利用する方法もあると思います。

司会者：

ありがとうございます。

岩手県環境生活企画室：

今の太陽光パネルの問題に関して、あと20年後どうするかという非常に重要な問題だと思います。きちんとやってらっしゃる業者さんがいっぱいいると思いますが、一部そうじゃない人もいるかもしれないという心配だと思います。国でも今、法改正である一定規模以上の太陽光発電利用者は必ず車のリサイクル券みたいな感じで義務付けることで動いているので今後はそういうことは大丈夫なのかなと思います。けれども、そこはしっかり見ていかなきゃいけない。放置されないように地域の監視をしていかなきゃいけないなというふうに思います。

いわて地域脱炭素推進員 S さん：

私も大槌町の12月の立ち上げ時に、環境学習交流センターの出張環境学習会で参加させていただきました。写真にもありますように、東京大学の先生の講演会には、大槌高校の生徒さんが多数参加されていました。これから地域の協議会を推進していくのは、やっぱり若い人たちの力だと思いますので、非常に心強い。これから頑張って、若い人たちを中に取り込んで、巻き込んでやっていくかということが重要ですのでひとつよろしくお願ひしたいと思います。

●情報・意見交換会

一関市地域協議会からのテーマ：推進員の活動好事例について

いわて地域脱炭素推進員 I さん：

家庭の方にもうちちょっとウエイト置くようなのがほしい。実際の電気代の請求書を見て皆さんはわかりますかね。昔は深夜電力、昼夜料金でしたが、今は5項目ぐらいある。私も正直言って読めない。深夜電力も高い。なのでそういうのをみんなで勉強し合う機会があればいいなと言うようなことを話したら、岩手エネルギーエージェンシーという組織ができていた。その中で住宅の勉強会を行っ

て、話ができる人を、育てていきましょうっていうような感じが出てきましたので、まあ、だんだんそういう世界になってきてるんだなと。やはりみんなで自分のところがまずどのぐらい使用して、どうしたらその電気代とかが減らせるのかなっていうのは、省エネ診断に参加させていただいていることによって非常に大事してます。断熱も大事。

いわて地域脱炭素推進員 H さん

推進活動の好事例ですね。受講する側じゃないので。まあ、好事例と言ってもなかなか講座をした後に「あれ、良かったです。」と言われるようなことも無いのですが、まあ、反応があるのは、例えばうちエコ診断が、岩井さんが言ったように。電気代とか、お金に関わるメリットが重要な場合とか、あと子供とかに「ちょっと今、危機的な状況にあるのを感じたので、自分も行動したいです」とかって言ってくれたとか、そういうことに関してはすごいやりがいを感じて、よかったなと思います。おそらく協議会さんの活動も全体的にそうなんですけれども、活動のモチベーションを保つっていうのが、温暖化防止の活動ってすごい難しいなあとこのように思っていて、義務感を責務感とかだけでこれから続けていくのは、持続しないなと思ってます。断熱やって電気代安くなりましたとか。やりたいと思ってもらえるような仕組みづくりを、協議会さんとか我々推進員がどんどん市民の方に提供していけばいいのかなというふうに思います。お金だけじゃなくて、仲間づくりだったり、社会的な地位だったり、達成感とかがいろいろ人が動く原動力であると思いますし、そういうところでどうやってアプローチしていくかっていうのは、我々に求められることなのかなというふうには感じています。

いわて地域脱炭素推進員 K さん：

電気代の高騰について、住宅断熱材の必要性、ペレットストーブの補助金、北海道の家の方が暖かい造りとなっている。内陸のほうが寒い。体が暖まる根ショウガの活用等

岩手県環境生活企画室：

大槌町地域協議会が行った 12 月のイベントが盛り上がったことが好事例ではないか。

他にもたくさん活動されている方がいるようですのでその中から事例紹介していただければいいかなと思います。

いわて地域脱炭素推進員 S さん：

実際、現物を用いると理解してもらえるとと思いますし、市町村さんが主体的に学校と組んで温暖化防止教育をするとき推進員派遣するケースがございます。その時には機材を持って行って、実際それに触れさせながら体験してもらおうと、子供達に原理を理解してもらえようです

三陸自然学校大槌/地域協議会：

座学ではダメだと思うんです。必ずその何かを触らせる方が理解しやすい。

座学はやめる。ぜひ学校の方に出前学習を PR して実施してもらいたい。

学校も急に行ってもそれは来年ですよねとなる。一年間の計画は 2 月、3 月に決まってるみたいなのでもうちょっと手遅れかな。その隙間のところに行って、頭

を下げて。そういう学習会のセッティングしなければならない、と考えている。

岩手県環境生活企画室：

小学校のところでは、地球温暖化を防ごう隊を県で進めている。その指導のところは脱炭素推進員派遣制度を利用して「事前学習してから取り組んでくださいね」ということでお話をさせていただいている。

今、おっしゃったように、やっぱり2月3月位で予定が決まっているというところも多いのであらかじめ通知みたいな形で今頃学校にはお願いしている。

久慈で行った推進員派遣もTVで取り上げていただいている。

司会者：

今ちょうど子供たちのお話が出たんですけども、事前にいただいた質問の中に、盛岡市さんのご質問で、若年層への啓発が難しいという、意見交換会で取り上げてもらいたいとコメントがありました。

司会者：

温暖化センターを運営していくにあたって、大人たちへの啓発も大事だがこれからの時代を担っていく子供達に伝えなければならないと思っている。その子供たちがその温暖化という時代を生きてかなきゃならないということですから、彼らにより考えてもらいたいと思っています。

釜石市：

小学校で講座をさせていただきましたが、そもそも脱炭素という漢字を学んでいない。どのような形で教えていくべきか困ったということになった。十代以下、十代、主婦層、高齢者に伝えるにはかなり変えていく必要があるんだなというところです。小学校の方でエコチェックというものを行っておりまして、実際に「どのような分野の二酸化炭素を減らしているか」、というふうに「見える化」を今のところは実施しているところです。

司会者：

エコチェックの参加、誠にありがとうございます。私たちもこれを推進していて、それは一つ実施すると、どれだけ削減できるかというのが目に見え数字でわかるようになってますので、何とかこれをいろんな方面で活用していただきたいなと思っています。

若年層の働きかけ方、非常に重要です。花巻市さんですかね。環境学習チャレンジブックというのを実施しているということなのでその辺のお話をお願いいたします。

花巻市：

花巻市の方では環境学習チャレンジブックということで岩手県の環境ワークブックのようなかたちのものを花巻市独自で作っています。その内容としては、環境に関するドリルみたいなものになっていて、例えば「ゴミを分別しましょう」ということで、家庭に実際にあるゴミが燃えるゴミ、燃やせないごみ、どれに分類されますかね？ということ、自分たちで分類表を作ってもらうとか、実際に本を見ながら水質検査をしてもらいたいな、そういうドリルの形式のチャレンジブックを作って各小学校に配布するという形でやっております。

これまではチャレンジブックの内容が十何年間一緒だったんですけども、令和

6年3月に環境基本計画を作成しましたので、この内容に合わせてチャレンジブックの方も、もっと分かりやすく内容を刷新して振り返ることを考えております。今まではチャレンジブックを紙で配布していたんですけども、今は小学校もIpadが1人1台配布されているようですので、そちらの方で見れるようにデータで配布することも考えております。

司会者：

この環境学習チャレンジブックがどんなものかと思って探してみましたが、花巻市では環境基本計画の子供版を作っておられて、それが非常にわかりやすく、ルビもふって、子供達にSDGsとは何か？とか、地球温暖化対策は何か？どうしたらいいのか？とか。細かく書いていらっしゃるの、他の市町村さんも参考になるかなと思います。

花巻市：

こども版のドリル版もあります。

センター長

数年前は、SDGsを学校でどうやって知らせるか、何をしたらよいか分からないので講義してほしいという話がありました。葛巻高校、北桜高校、宮古商工高校などで実施しています。

最初はSDGsからスタートしましたが、その後、未来カルテ2050のソフトがあり、2050年に、その町の人口が減った時に、産業がどうなるかを、シミュレーションするソフトで、それを使い、未来を考えます。温暖化によりいろんな影響を受ける。人口減少、温暖化による農業への影響、産業や災害など。高校生たちに情報を与え、どうするのかを考えるワークショップです。地方創生も同時に考えます。最後は、町役場の方に来てもらい、聞いてもらいます。

課題としては、人口減少問題が大きい。自分がその街に住み続けた時に、いろんな問題が起こるのに気がついてもらうのが、重要です。気候変動によって様々な影響を受けるのですが、なかなか自分ごとにならない。最近では災害が頻発しており、これは自分ごとになる。防災とか災害の話をする、防災士になりたという希望も出てくる。カードゲームのワークショップでは、自分の提案を出してもらう。

盛岡の学校は、規模が大きいので、中山間地の中規模から小規模がやりやすい。アプローチの仕方を少し変えて伝えていく。このやり方も一つの方法ではないかなと思っています。

司会者：

若者ワーキンググループ前半部分で発表いただいたんですけども、追加で岩手県からお話があるということですのでお願いいたします。

岩手県環境生活企画室：

前半の方で若者ワーキンググループ、いわてカーボンフリー・アクションの取り組みを紹介させていただきましたけれども、若者ワーキングよりゼロカーボン終活について触れていただいたのでそれについて補足説明したいと思います。温暖化防止いわて県民会議若者ワーキンググループの事務局が岩手県環境生活企画室となっている。

今回企画したゼロカーボン就活は、昨年度の提言にあったように若者と企業をつなぐことで脱炭素に対する課題解決ができるんじゃないかというところからこのような企画が生まれました。実際学生が就活するにあたってやっぱり企業を見なきゃいけないという、通過点があって、環境に取り組んでいる企業とつなげることができたらというイベントです。

実際に9社受けていただくのですが、このワークショップの内容も様々で、「カードゲームをします」とか、「DIYをします」とか、「あの上司を説得するためにどうしたらいいか考えましょう」とかですね。各企業さんで考えていただいたワークショップを参加者にやっていただいて、環境のことも知れるし、企業のことでも知れるイベント企画となっています。若者を巻き込むというか、双方にとってメリットがある方法というのは、そういった内容を比較していただくと、若年層、十代、20代の方々もその一部に引き寄せて、考えて頂けるんじゃないかなというふうに思っている部分があります。何か参考になれば嬉しいなあと思いますし、当日ブースに入るとかは難しいかもしれないですけど、お近くに大学生がいらっしやったらこのイベントをPRしていただけたら嬉しいなあと思います。

司会者：

これからの時代を担う若者たちの、環境教育、非常に重要だと思うんですけども、オンライン参加のみなさんから、何かご発言はございませんか？

三陸自然学校大槌/地域協議会：

昨年10月小学校に行って水の話をした。5年生50人ぐらい、その中の男の子が、「おじさんなんで環境の話ばかりするの？俺たちが大人になった時に宇宙船で生活するから、環境の話しなくていいよ。」という子がいて絶句した。

我々が一生懸命心配しているのと、その子供達が、環境に対するその捉え方っていうのはとんでもないギャップがあるのかな。その時にショックを感じたんですよ。何も答えられなかったんですけど。だからあなたが大きくなった時にまた改めて環境の話をしましょうねという事しか言えなかったんですね。環境をもうすぐ出るファッションとして捉えるようなアイデアがないのかなって。若者のハートキャッチするような、その捉え方が無いのかな？どんなファッションに繋げるかというのはちこれからの戦略なんですけど。

若者ワーキング：

Z世代の大学生が高校生に授業をさせていただく機会がありましたが、同世代の人から教わることですごい刺激がありモチベーションになるらしくて、それがアンケート結果で出ています。同世代がいかに同世代に伝えていくかが重要。同じ時代を生きていくから。

ICFA：

高校生さんたち最初は全然興味がなかった。10月大学生の皆さんに山田高校で出前講座をしてもらって、ちょうど先週1月に山田高校で同じ生徒に出前授業を行ってきた。その時は大学生いなかったが、10月の講義を受けて「実践していることってありますか？」と問いかけたところ皆さん10月のことを覚えていて自分に引き寄せて行動を変えていた。目に見えた効果があった。伝える人って重要な

のだなと実感した。

盛岡大学に進学する山田高校の三年生が、進学したら、いわてカーボンフリー・アクションに参加するといってくれたことがとてもうれしかった。

センター長：

ワークショップのグループワークでは5~6人のファシリテーターを付けていて大学生にやってもらおうと年代が近いのでざっくばらんに話しやすいようだ。近い世代の子たちが思いを伝えるほうが伝わりやすい。中間の若い子たちを育てることも大事。地方に行く若い人がいないので課題。

県北広域振興局：

今年度から久慈に異動になった。若者少ないと感じている。接点という観点で話せることはないが、個人的に考えていることは、いつの時代も若者はトレンドに敏感なものだと思っている。温暖化のところでありますが、トレンドの中に温暖化のことをさりげなく取り入れる風潮を社会的に作れたら努力するまでもなく解決に向かうのではないかと感じています。

私は下着と靴以外は古着です。若者の間では古着がブームになっています。それはサステナブルを意識しているのではなく単に古着が好きだから、古着がおしゃれだからという形で無理なく取り入れている結果だと思います。

小さい世代から無意識のうちに地球環境にやさしい取り組みができればよいのではないかと。それがどういった方向でどう浸透させるかというのは分からないのですがそういったところを話し合えるようになっていけばいいんじゃないかなと思っています。

宮古市：

脱炭素通信発行、地球温暖化協議会の取り組みを掲載、SNSの活用デカボンキャラクターXのアカウントを作成して発信している。

奥州市：

会場参加2年目です。いろいろ勉強させていただいてありがとうございます。

当市も令和6年4月に脱炭素専門部署を立ち上げた。少しずつですが、ゼロカーボンシティ宣言し、着手したところです。

一般市民・若者・高齢者、そういったところに「ゼロカーボン、温暖化対策の必要性を理解していただくか」、というところで頭を悩ませている。昨年秋11月市の広報で6ページの特集記事を作成しそういったものを皮切りに徐々に伝えていくしかないなと思いつている。

高齢者向けでは大槌町発表のゆでガエルなど寓話やたとえ話を使ったほうがリアルにイメージしやすいし、伝わりやすいと学ばせていただいた。

今、始めた地域、市の立場で見ると本日の情報は役に立つなと見させていただきました。

いわて地域脱炭素推進員Hさん：

皆さんアンケートにも書かれていたようなのでインセンティブについてお話ししたい。

国では子育て世代に住宅の断熱支援を充実させているが、それ以外にインセンティブがない。会社の生産性を上げたいのであれば「温暖化対策をこういうことを

	<p>すれば IT 課のほうで支援しますよ」とか、農家であれば、「有機農業、温暖化の適応策のために作物を変えたい人のために支援しますよ」とか、介護であれば、「いい環境を優先的に提供しますよ」とか、いろんな分野をミックスさせて「環境のことで頑張りましょうよ」というアプローチじゃないところを進めていただいたらみんなが気にしてくれるのかなと思っていました。</p> <p>滝沢市：</p> <p>脱炭素の見える化についてはソフトを企業向けに無料で使えるようにしている。1年目はデータを入れてどれくらい自分たち CO₂排出しているのかをみたうえで2年度目につなげるといった状況。</p> <p>センター長：</p> <p>本日はお忙しい中様々な意見交換ができ大変充実、参考なになったかと思えます。脱炭素は待ったなしで、デコ活と言っているが、これまでは普及啓発していればいい時代だったのが、「今は具体的に削減しないと大変なことになるよ」という状況ということです。今年の夏も暑い、ゆでガエルの話があったけどほんとにゆでガエル状態になってきている。初期の判断を誤ると未来世代も大きな影響を受けることは確実なので、2030年に向けた目標設定に向けて一般市民、企業総力を挙げて取り組まなければならないということだと思えます。</p> <p>脱炭素先行地域の市町村は頑張っただいて他の市町村さんもそれに続いていくということが求められているのかなと思います。</p> <p>私どもの団体も及ばずながら支援してまいりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>
5. アンケート	○事前アンケートあり集計(事前配布) ○事後アンケートあり集計(事後報告)
6.まとめ	<p>令和6年度の地球温暖化対策地域協議会情報・意見交換会は昨年度と同様、会場とオンライン併用で開催。</p> <p>発表は脱炭素先行地域に選定された釜石市、陸前高田市、協議会からは震災後から休止中であった大槌町地球温暖化対策協議会のキックオフまでの道のりと今後の活動について、情報提供として「若者ワーキンググループ」、「いわてカーボンフリー・アクション」から若者手動の活動を紹介いただきました。</p> <p>情報・意見交換会は事前に行ったアンケートに沿って進められ有益な情報交換の場となりました。</p>